



## 住みやすい町を目指して...③③

# 鮎釣りの名所を次世代に繋げよう

酒匂川漁業協同組合松田地区理事 栗原 賢さん(城山在住)

松田山の早咲き桜が散り始める頃、酒匂川の十文字橋下流の堰堤付近では、相模湾河口からはるばる遡上してきた小さな天然の鮎たちが、上流を目指してイッパイ飛び跳ねています。これを狙ったシラサギやカワセミ・カワウ・カラスなどが飛び交い、富士の景観と相まってこの時期の風物誌になっています。

鮎の別名は「年魚」と言われ10～11月頃に産卵して一生を終わりますが、2週間ほどでふ化した仔鮎は腹部に栄養源になる卵黄を抱え、日暮れと共に相模湾を目指して流下します。寒い冬の間はプランクトンを餌に遡上の時期を待ち、水がぬるむ2月下旬頃は水生昆虫類を食べながら遡上の準備を整えます。

7月初旬になると行動も活発になり、石についた藻（アカ）を主食とし縄張りをもちながら上流を目指して成長を続けます。酒匂川の最終到達地点は旧山北高校付近の安戸堰堤です。

自然のサイクルは順調に繰り返されているようですが、水中を覗いてみると2010年に起こった小山町土手決壊による土砂流出の影響が、今でも色濃く残っています。

各所に堆積した土砂が大雨のたびに下流に流れ、石についたアカを削り石が土砂で埋もれてしまいます。上流域の山北地区では、「灌漑用水」との関連もあり川に流れ込む水量の不足から水生昆虫類の減少や、下流域では堆積した土砂の排出に重機による河床整理が行われるなど、鮎の成長



上流を目指し堰堤を力強く遡上する鮎

に欠かせない瀬や淵が消え変化の少ない浅瀬が増えるなど、縄張りをもって成長する鮎たちにとって、厳しい環境が続いています。

“川や海を守るには森を作れ”と言いますがまさにその通りです！「酒

匂川漁業協同組合」では、十文字橋下流の堰堤から1万5千尾の稚鮎を特別再捕して上流域の谷峨地区に放流したり、小田原市とタイアップして「親子で鮎放流体験」や「親子友釣教室」を開催しています。又、山北高校や立花学園の釣り部「課外授業」に無償協力を行うなど、鮎との共生を図っています。

富士山と松並木、ヒバリやキジが住む酒匂川。自然の豊かさに恵まれた“鮎釣りの名所”を次の世代に引き継げるよう、これからも環境を整備し釣り客の増加を目指してまいります。

※「住みやすい町を目指して」活動されている方や団体が、このコーナーに掲載を希望される場合は下記までご連絡ください。

## 皆さんの傍聴をお待ちしております！ 第2回定例会は6月5日(火)

委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	議長
大館	齋藤	小澤	中野	飯田	平野	由里子
秀孝	永	啓司	博	一		

議会広報広聴常任委員会

平成30年度の松田町予算も編成され、今までにない大型予算となりました。町として今後やらなければならぬ大きな事業が山積みをし、既に着手したこともあり、町が大きく動き始めた思いがいたします。また、松田町の最高規範である「自治基本条例」及び「議会基本条例」が制定され、更により良い松田町の発展に繋がって行くことと思えます。

(中野)

